



臨床検査ニュース

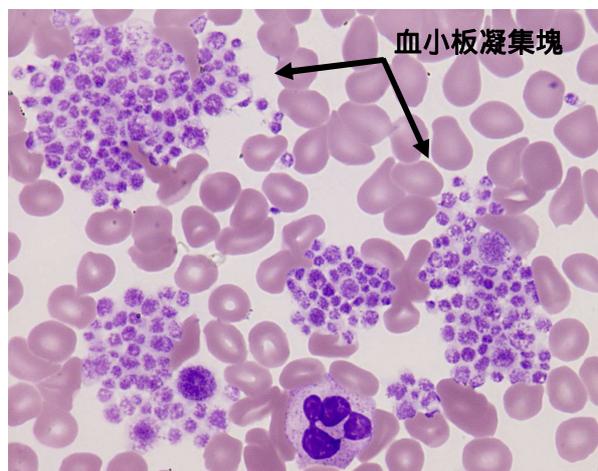
平成 14 年 5 月 27 日

血小板数 1 万以下！でも出血しない？

検査結果を画面で見ていると、血小板数が 4000/μl。目を丸くして見ても、確かに 1 万以下。慌てて診察したが、出血を認めた形跡もなく、出血傾向も認めていない。そんな経験は 1 度位あることと思います。偽性血小板減少症です。体内において血小板の減少はないのに、採血後に採血管の中で、血小板が凝集を起こすのです。その結果、自動血球計算機で少なくカウントされてしまうわけです。なぜこんなことが起きてしまうのでしょうか？すべては解明されていません。現在のところ、採血管内の抗凝固剤である EDTA によるキレート作用によって、血小板膜上の Ca^{2+} イオンが修飾されるためと考えられています。膜表面の変化を起こした血小板は、血液中の凝集素と反応しやすくなるのです。形成される血小板凝集塊は大小様々ですから、見かけ上減って数えられる数も、値にさほど影響しないものから、驚かされるものまであります。EDTA を二重シュウ酸に変えた場合には、血小板が破損しやすく、見かけ上多く数えられることがあります。

残念ながらこの減少を確実に防ぐすべはありません。ただし、採血直後の攪拌が不十分だったり、採血してから検査までに時間が経つと起きやすくなります。また悪性疾患、自己免疫疾患、肝疾患、抗菌薬投与中の患者さんに多く見られます。

ID: 01010101	氏名 トウイ タロウ	性別: M	年齢: 10		
オーダー NO: 0000001	東医 太郎	依頼科	検査実施日 02/04/20		
一般	検査名	結果	結果情報	正常値	検体
・	白血球数	3.2	再検中	2.70 - 8.80	全血
・	赤血球数	4.68	再検中	3.70 - 5.40	全血
・	血色素量	14.7	再検中	11.00 - 17.00	全血
・	ヘマトクリット値	41.9	再検中	34.00 - 49.00	全血
・	MCV	84.5	再検中	84.00 - 100.00	全血
・	MCH	29.6	再検中	27.00 - 34.00	全血
・	MCHC	35.1	再検中	32.00 - 35.00	全血
・	血小板数	4	再検中	140.00 - 340.00	全血



検査部においては前回値と比較して血小板数が目立って少ないときには、目視で凝集塊を確認し、最終結果をお知らせします。それまでは画面内の結果の横に「再検中」と表示されています。検査結果を臨床上的重要な判断に用いる場合には、「再検中」という表示が消えて固定されるまで待つ必要があります。

参考: 1) Susumu Sakurai: *Br J Haemat* 99: 817, 1997
 2) 臨床検査医会 Q&A <http://jaclap.org/consultation.html>

臨床検査医学教室 検査専門医 腰原 公人
 内線 3559 PB-323

(Clinical Test News No.9/2002. 5)